



青柳 俊君、日本医師会長選挙に立候補

—理念の継承と新たな発想をもって—

会長 飯塚 弘志

前世紀の失われた10年の回復と新しい世紀における変革を求めて、小泉内閣が誕生し、はや2年半経過した。圧倒的支持率の高さを背景に、自民党総裁選挙でも圧勝し、更なる勢いを得んと、衆議院解散、総選挙へと突入した。

その間「聖域なき構造改革」と称し、種々の変革を試みようとしている。

医療問題においては「三方一両損」として、国民と医療機関への一方的負担増と忍耐を押し付けている。史上初の診療報酬引き下げ、高齢者、被保険者本人への一部負担増、保険料の引き上げ等々である。経済不況は続き、自殺者も年間3万人を越える年が続いている。

社会保障はそもそも国民が苦しい時に、国が生存権、健康権を保障するために創られたものである。人々が明日の生活、老後に不安を持たず、安全に安心して暮らせる平時の国家安全保障なのです。変革は必要であります。しかし最も重要なことは何を变えるべきか、どのように変えるかということです。又、何を变えるべきでないか、とりわけ国民の健康権を阻害するようなことは決して行ってはならないのです。

生命と健康の保障、これこそが国家の最大の責務なのです。営利企業の医療への参入、混合診療の導入など、とんでもない事があります。

このような時、坪井日医会長が、先の日医臨時代議員会での冒頭、今限りでの引退を正式に表明しました。会長としての8年間、体力、気力、智力を三位一体とし、深い哲学に裏打ちされた、理念実現のために努力を続けてこられました。その力強いリーダーシップにあらためて深く敬意を表する次第であります。

坪井会長が去った後の日医会長は、その理念を

しっかりと受け継ぎ、新たな発想をもって、平時の安全保障である社会保障、医療保障を確立していくことが求められています。

柔軟な発想と改革の意識を常に持ち、それを実行していくことがリーダーに求められています。

今日多くの医療問題、文字通り山積してあります。しかもいずれも甚だ難しい問題ばかりです。これら諸問題を適確に判断し、間違いのない方向へ進めていく実行力を持った人間でなければなりません。ざっと日本中を見廻したところ、そのような人間がいるのでしょうか。

居りました。青柳 俊先生です。先生こそ、これ迄の仕事ぶりを見るまでもなく、人間としての明るさ、包容力、人間としての賢さ、判断力、人間としての強さ、実行力、この三つを兼ね備えた私どもの求めているリーダーであります。彼こそ日本医師会会長として、最も相応しい人物であります。

今日の難局に直面している種々の医療問題に適切に対応できる人間であります。それらを託し得る人材であります。

去る10月12日、日医臨時代議員会終了後、正式に日医会長候補者としての立起を表明致しました。これまでの仕事の中から芽生えてきた自負をエネルギーとして、新たな仕事に挑戦しようと決心したのです。

先輩諸氏が築き上げられた良き伝統と、坪井会長の「社会保障は平時の国家安全保障」という理念を継承し、新たな発想のもとに会務を執行していくと明言しております。それは彼の願いでもあり、私どもの願いでもあります。

皆様のご理解とご支援を頂けますよう心からお願い申し上げます。